

# 段落相互の関係の把握 通過率39.6%

接続語「また」に着目することで、段落のつながりが不自然であることに気付く。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

(文章中の○から㉑は段落の番号です。)

○ 平成二十五年九月に行われたオリンピックの開催地を決定する会議で、滝川クリステルさんが東京の良さを訴えるスピーチをしました。その中で滝川さんは、「おもてなし」という言葉を取り上げました。そして、その言葉には、訪れる人を心から大切に思い、お迎えするという深い意味があり、先祖代々受け継がれ、日本の文化にも深く根付いている言葉であると紹介しました。

㉑ わたしたちが当たり前に行っているこの「おもてなし」は、日本を訪れた外国人からみると、当たり前ではなく、日本の「おもてなし」に感動する人も多いようです。では、外国人は、日本の「おもてなし」のどのようなところに、感動しているのでしょうか。

㉒ また、トイレの美しさにも感動するそうです。清潔に保たれているだけでなく、花が飾ってあったり、はきものがすぐ使いやすいようにそろえてあったりするからです。これらには、トイレを使う人に気持ち良く使ってもらいたいという心がこめられています。

㉓ 和食のレストランに入ったときには、季節を感じさせる料理や食器などにも感動するそうです。これらには、お客様に味だけでなく、季節感や見た目の美しさも楽しんでもほしいという料理人の心がこめられています。

㉔ これらの例から、外国人は、「おもてなし」から日本人の相手を思いやる親切な心に感動していると考えられます。

㉕ 世界の人々も感動させる「おもてなし」は、茶道という古くから伝わる日本の文化にもみることができます。茶道は、庭や部屋のすみずみまで美しく整え、お茶とおかしなどでもてなす日本の文化の一つです。この茶道から「二期一会」とい言葉が生まれました。「二期一会」には、一度かぎりの出会いを大切に、まごころをこめて人と接しようという気持ちがかめられています。この「二期一会」の心こそ、日本の「おもてなし」の原点だといえるのではないのでしょうか。

㉖ このように「おもてなし」は、わたしたちの心に深く根付いている日本の文化であり、相手を思いやる心の表れなのです。わたしたちは、世界には「これる文化」として、「おもてなし」の心を、これからも大切に、引き継いでいきたいものです。

2 次の○の文は、㉑段落から㉖段落のいずれかの段落のうしろに入ります。あてはまる段落の番号を□の中に書きましょう。

□

段落のうしろに入ります。

ある外国人は、「日本人に道を聞いたら、必ず教えてくれる。自分が分からなかったら、ほかの人に聞いてくれる」と、日本人の親切な心に感動していました。

誤答を見ると、㉕段落の後ろに入ると考えた児童が多いことが分かる。これは㉕段落に初めて「親切な心」というキーワードが登場するため、そこだけに着目して㉕段落の後に抜けた段落が入ると判断したと考えられる。

## 内容の系統

第1・2学年  
読むこと  
時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

第3・4学年  
読むこと  
目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

第5・6学年  
読むこと  
目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

主な解答例		割合 (%)
○	㉑	39.6
×	㉕	25.2
×	㉔	12.3
×	㉖	9.0
×	上記以外の解答	12.5
—	無解答	1.4

## 提案

段落相互の関係を指導する際には、文章の内容をしっかりとらえさせるようにしましょう。

段落相互の関係を指導する際には、例えば「○○を読み、内容を分かりやすくポスターに表して伝え合おう」といった単元を貫く言語活動を設定し、内容を構造化して表すといった、目的に応じて分析的に読む学習を仕組むことが大切です。その際、指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割に着目させることも大切ですが、キーワードに着目させながら、筆者が考えや意見を述べるために、どのような具体例を挙げているのか、文章の内容をしっかりとらえさせるようにすることが重要です。